

1. 土づくり 完熟堆肥を必ず使用し土作りを行なう。(入手先、原料の確認出来る物)
2. 施肥 (化学肥料由来の窒素成分は、11.5kg以下) ※追肥については適量を守っての施用

	肥料名(N-P-K)	施肥量(10a)	備考
基肥	味好1号(6-8-4有機100%) または エコマスター(6-2-1有機100%)	240kg/10a	* 土壌診断により施肥量の増減
	硫マグ(苦土25%) 粒状サンライム(石灰46%)	40kg/10a 60kg/10a	* 苦土石灰60kgでも 選択可能
追肥	トミー液肥ブラック(10-4-6)	100kg/10a	1作あたり使用上限
	くみあい化成8号(8-8-8)	140kg/10a	
	味好1号(6-8-4有機100%) または エコマスター(6-2-1有機100%)	20~40kg	使用上限なし
	硫マグ(苦土25%)	20kg	色が淡く葉肉が薄いとき
散布	カルマグホウ素PK 又は セルキープ	1000倍	葉先枯、芯グサレ対策
	ボロンセブン	1000倍	生育促進

3. 防除 (防虫ネットを必ず設置する。) 化学合成農薬 7成分回数まで (苗購入の場合6成分回数まで)

月／旬	作業	病害虫の発生時期		薬剤名	濃度/使用量	使用時期	備 考
7～8月	土壌消毒			① バスアミド微粒剤	20kg/10a	播種 21 日前	○夏期太陽熱消毒又は土壌還元消毒の実施。
9月	播種育苗			②アグロマックス水和剤	300g/10a	は種後発芽 前雑草発生 前	○育苗ハウスは防虫ネットを張り、害虫の侵入を防ぐ。
10／上	移植	マメハモグリバエ・ヨトウ類 アブラムシ 炭そ病・べと病		③ カルホス微粒剤F	6 kg/10a	定 植 時 (作条処理)	害虫対策 ○ハウスの換気、出入口には、ネットを張り外部からの害虫の侵入を防ぐ。 ○ハウス周辺の雑草は害虫の住処になるので除草を実施する。 ○ホリバーを吊るし害虫を捕殺する。 (ハモグリバエ防除イエロー) ○ハウス内で <u>春菊以外の作物を作らない。</u>
				④ ベストガード粒剤	9 kg/10a	定植時 (植着処理土壌混和) 収穫3日前 (生育期株元処理)	
10／中				⑤ ストロビーフロアブル	3000倍	収穫14日前	
10／下				⑥ ガードベイトA	3kg/10a	生育初期	
				⑦ エビセクト水和剤	2000倍	収穫14日前	
				⑧ モスピラン顆粒水溶剤	8000倍	収穫 3日前	
				⑨コテツフロアブル	2000倍	収穫14日前	
11／上				⑩ ダントツ水溶剤	2000倍 ～4000倍	収穫 3日前	
				⑪ アファーム乳剤	2000倍	収穫7日前	
				⑫カスケード乳剤	2000倍	収穫7日前	
11／中	収穫 始め			⑬アミスター-20 フロアブル	～4000倍 2000倍	収穫前日	
12月				病害対策 ○病害発生株は直ちに抜き取り、圃場外に穴を掘って埋める。 ○一度の多量かん水は菌核病、炭そ病が発生するので、低圧少量で回数を増やす。 ○菌核病、炭そ病は地表面の病原菌が灌水により土壌とともに跳ね上がり感染する。また、ハウス内の湿度が高くなると蔓延しやすいので、適度に換気を行う。 ○株が混みあうと菌核病が発生しやすい。株間は広めにし、株元の通風をよくする。			
1 月							
2月							
3 月							
備考	<u>病害虫の発生状況により選択</u> <u>灰色かび病</u> ・・・ボトピカ水和剤（2000～4000 倍、発病前～発病初期、制限なし） <u>軟腐病</u> ・・・コサイド3000（2000 倍、制限なし、制限なし）、ドイツボルドーA（500～1000 倍、制限なし、制限なし）、ジーファイン水和剤（1000 倍、前日、制限なし） <u>アブラムシ</u> ・・・粘着くん液剤（100 倍、前日、制限なし）、オレート液剤（100 倍、前日、制限なし* <u>農薬成分カウント対象のため注意する。</u> ） 注意 水分中の石灰分によっては汚れに注意が必要 <u>ヨトウムシ</u> ・・・ゼンターリ顆粒水和剤（1000 倍～2000 倍、前日、制限なし） <u>ハダニ・うどん粉病</u> ・・・アカリタッチ乳剤（1000 倍～3000 倍、前日、制限なし* <u>農薬成分カウント対象のため注意</u> ）						